

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	当該地域においてサイクロン災害に強いコミュニティが作られる
(2) 事業内容	<p>当プロジェクトは、先行プロジェクトで大きな効果があった青少年に対する防災教育アプローチを継続し、対象地域を拡大させて実施していくことに加え、先行プロジェクトで課題として残った行政への連携を新たなアプローチとして加えることで、防災意識をより進化させ、当該地域の防災対策に貢献することを目指して、以下のとおり活動を進めている。</p> <p>①教育現場におけるサイクロン防災に関する教育システムの整備と地域住民の意識向上支援活動</p> <p>災害リスク軽減 (DRR) 教材作成へ向けて、以下の活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 4・5月のサイクロンシーズンには、既存の教材を使用して学校での DRR 教育を実施。新たな教材開発へ生かすために、その DRR 教育実践に関し、生徒と教師からのフィードバックを収集。 ➤ 6月末には、新教材の原案が作成された。 ➤ 災害リスク軽減にかかる映画上映会を7回、文化プログラムを3回開催した。 <p>②防災担当セクターの能力強化とコミュニティ内でのプレゼンス強化</p> <p>ユニオン災害対策委員会 (UDMC) メンバーへの働きかけを実施し、サイクロン対策に必要な知識を提供し、また、メンバーの地域防災への積極的関与を促進した。</p> <p>17のサイクロンシェルター管理委員会の再結成を実施した。そして、メンバーに対し、防災に関するさまざまな知識を提供した。</p> <p>4・5月のサイクロンシーズンに際し、UDMC などの準備会議を繰り返し実施し、能力強化を図った。UDMC の定例会議は毎月開催されている (計6回)。</p> <p>③サイクロン対策用インフラ整備</p> <p>5月のサイクロンシーズンを前に、CPP (Cyclone Preparedness Program) に対し、災害キット (拡声器、ライフジャケットなど) を引き渡した。</p>

<p>(3) 達成された効果</p>	<p>世帯レベルの防災対策強化に関しては、5月中旬に大型サイクロンが発生した際、準備会議等の能力強化やインフラ整備（災害キット）の成果が生かされ、CPPメンバーが警報を近隣住民へ伝えて歩いており、地域の防災関係者の能力強化が進んでいることが示された。</p> <p>また、警報でシグナル5が出た時点で多くの人がシェルターへ移動しており、全員が避難しなかった家族でも、老人などを先にシェルターへ行かせるといった対応があったことが確認されている。DRR教育を通じた世帯ベースの防災対策強化が進んでいることが示されたと言える。</p> <p>防災対策を備えたコミュニティ強化については、UDMCメンバーの定例会議への出席率がおよそ7割まで改善した。</p> <p>防災にかかるインフラ整備については、7つのPSFのメンテナンス（再掘削と洪水に備えた土盛り）が行われた。また新たに6つのPSF管理グループが組成され、計16のグループがPSF管理に携わるようになった。</p>
<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>新教材開発については、8月の専門家出張の際に、原案へのインプットを提供する予定。それを受けて教材を完成させ、10・11月のサイクロンシーズンには新教材を使用してのDRR教育が実践される予定。これにより、世帯レベルの防災対策の強化をさらに促進させる。</p> <p>防災担当セクターの能力強化は継続して推し進め、防災対策を備えたコミュニティの強化や、防災にかかるインフラの整備へとつなげていく。</p>